（別紙1）　　2025・26年(令和7年度)　　Ⅱ症対応型共同生活介護

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790401434		
法人名	株式会社 ホライズン		
事業所名	グループホーム永崎		
所在地	福島県いわき市永崎字館39		
自己評価作成日	令和7年6月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和7年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活において出来る限り身の回りの事が出来ることを続けられるように機能訓練や歩行訓練、ラジオ体操、パワーアップ体操、レクリエーション、誤嚥予防に食前体操、あいうべ体操を毎日実施しております。毎月の利用者様が楽しめるように季節のイベントや地域との交流ができるように取り組んでいます。医療との連携を大切にし利用者様の急変時には、主治医の意見やアドバイスなどの指示を仰ぎ、ご家族の方にも、情報がわかる様に体制を整いています。利用者様が安心して生活出来る様に支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりのの利用者が地域の中で、人々に見守られながら、安心して穏やかに毎日が過ごせるよう、地域密着型サービスの役割を理解し、理念に基づいたケアができるよう取り組んでいる。
事業所の持っている力で地域に貢献しようとしたり、災害時には地域の方の協力を得られるよう避難訓練に参加を呼びかけながら、事業所を地域の資源として役立ててもらえるようにしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解しながら利用者様の傾聴をし、ご家族様と協力しながら利用者様の想いが実現できるように支援します。また、利用者様が有する能力に応じた自立した日常生活を安心して穏やかに生活できるように努めています。	利用者が穏やかに安心して生活ができるよう職員は利用者の日々の生活に合わせながら考えている。帰宅願望や不安・不穏に対し傾聴しながら寄り添って対応して行くことで、利用者の安心が守られるよう日々取り組むことで理念が生かされていくと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	開設して1年が過ぎ、近隣の小中学校との交流する機会があり運動会を観に行ったり、体験として施設にきて頂いたりしています。また、馴染みのスーパーに行ってお買い物をしに行ったりと交流する機会を増やせるよう努力しています。	事業所裏手にある中学校のスポーツ大会への参加を呼びかけてもらっている。小学生の体験学習で話をしたり運動をしたりゲームをしたりと楽しんでいる。日常的に地域の方と挨拶をしたり、会話をするなどして地域からの声かけがあれば積極的に参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅事業所や市町村の方と気軽にお話が出来るように貢献しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	感染予防のため、書面開催とした運営推進会議ではありますが、ホーム内の状況、活動を報告しています。	地域との交流や地域の行事があれば積極的に参加したいので、声かけをしてくれるよう伝えている。利用者の状況や月々の行事、感染症対策に対して意見や提案を受け、いただいた意見や提案は職員ミーティングなどでも話し合い日々のケアに生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告や問題点がある場合には、市町村担当に報告、相談、解決に取り組んでいます。	事業所の入居状況や書類提出等など、不明な点や不安な場合は、窓口に出向き相談するようにしている。市の担当者には、事業所や利用者の状況を伝えており不測の事態があった場合には協力してもらえるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修に参加できるように実施。ミーティングや会議などで話し合いを行い身体拘束に繋がらない様に取り組んでいます。	事業所としての基本方針を作成し、定期的に身体拘束防止委員会を開き拘束のないケアに取り組んでいる。言葉の拘束に気付いた時は、基本方針を読み返すよう職員に伝え、身体拘束防止委員会に参加するようにしてもらっている。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加できるように実施。ミーティングや会議などで話し合いを行い高齢者虐待防止に努めています。	高齢者虐待防止関連法を研修等で学び,学んだ内容を事業所内の会議で話し合い日々のケアに活かしている。不適切なケアに気づいたときは職員と話をするとともに、職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響しないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある場合は、関係者と話し合いを進め、活動が出来る様にサポートしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について十分な説明を行い、理解納得を図れるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族の意見や要望があれば出来る限り傾聴し、運営に取り組んで行きながら、ご家族様にも安心していられる様に、職員は努めて行きます。	玄関先に意見箱を設置し、いつでも自由に意見を出してもらえるようにしている。職員全員が出された意見や要望を確認できるようにしている。利用者や家族の意見は真摯に受け止め検討し、より良い事業所のケアに結びつけるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎月定期的にミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けたり、自主的に事業所オリジナルコルクボードに意見を述べられるようにして努めています。	行事やレクレーションの内容などの意見や提案を起案書に記入してもらい、活用している。日頃から職員とのコミュニケーションのために、管理者自ら現場に出て職員の現場での意見をケアに反映できるようにし、働きやすい環境づくりを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、処遇への反映、向上、心を持って協力的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は、できるかぎり参加させてあげたいです。また、個々の力量に応じた研修で学んでいければと考えています。	職員の質の確保や向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、運営規程に記載された研修を行っている。研修に参加した職員には研修報告書を提出してもらっている。利用者への対応や業務の流れに改善が見られ研修の成果が生かされている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流している法人との研修や情報を交換充実させサービスの質を向上していけるように努めていきたいです。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面談をできる機会をつくり、本人の要望や意見を汲み取ったり傾聴する事で、安心して生活が出来る様にしていきたいです。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、思いなどを聞き入れながらホームの説明も行ったうえでサービスを導入していきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が、本人にとって良いのか家族の方やケアマネなどともお話し合いをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合える関係を築いていければと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り支えていける関係を築けていきたいです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域でのお買い物や馴染みのある場所までドライブしたり、長い間かかりつけだった医療機関など入所しても変わらずこれまでの関係を壊さない様に心かけています。	さまざまな感染症の状況に応じた面会時の規制を行うことがあるが、直接の面会が中心になっている。家族からの連絡があった場合には、外出や外泊という形でこれまでの馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握・理解し、お互いに関わり合いを持てる様に、職員は支え合えるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、依頼があれば出来る限り対応し相談にも応じたいです。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	利用者様の傾聴を聞き入れ、ミーティングなどでも職員と話し合いをしていく。出来る限り本人の意向に添える様に努めていきたいです。	談笑時や居室で職員と一対一になったときに思いを聞くことが多い。家に帰りたいなどの想いには傾聴しながらよりそい、安心して毎日が暮らせるよう対応している。把握した思いは、職員間と家族と情報の共有を行ないケアに生かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りをして、出来る限り把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの現状の心身状態や一日の過ごし方の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと職員とが情報を共有して職員全員で話し合いを行い、また家族とも話し合いを行い、より良いケアをサポート出来るように個別の具体的な計画でわかりやすい介護計画を作成していく。	その人の持っている力を活かしたり維持できるよう、日々気づいたことがあった場合には職員間で話し合いケアに反映させるようにしている。現場で実践的な対応ができるよう、状況や状態が変わった時には見直しや変更を速やかに行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録で情報を共有し、実践や見直しに活かしていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族の状況に応じた支援を行っていけるように心掛けています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を増やし楽しみが増えるように努め、安心して生活が出来るように努めていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を大切にし、適切な医療が受けられるように支援していきます。	入居前のかかりつけ医も、事業所との協力医療機関での受診も可能にしている。受診は基本的には職員対応にしているが、利用者や家族の希望により、家族対応の方もいる。受信結果は家族と共有し、緊急時などに備えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを定期的に行い、いつもと表情や変化があれば医療機関に相談し適切な診察を受診を受けられるよう支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を交換したり相談し合い支援していきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを事前に医療機関に伝え話し合い、利用者様の状態が変わったときにも混乱がないようにチームで支援するように取り組んでいきます。	医療機関から利用者の状況説明や延命治療など、重度化や終末期に向けての話し合いの場に関わるようにしている。事業所の対応については、段階ごとに家族やかかりつけ医と移行を確認しながら、対応方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応は、全職員が統一して対応できる様に、社内研修等を実施していきます。 医療機関にも相談をして応急対応を教えて頂いていきながら実践力を高めたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害計画、事業計画、避難計画などがあり職員全員に避難方法手順を身につけられるよう訓練を行っていきたいです。万が一に備えて地域との協力体制も築いて行きたいです。	訓練の時には消防署に派遣を要請したり、委託業者や地域の方に参加してもらうようにしている。職員は年に2回訓練に参加できるよう、日程や勤務の調整をしている。日常的に状況に合わせた対応ができるよう避難方法の検討を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いにも気を付けながら利用者様の声掛けにも対応し、誇りやプライバシーを損ねないよう出来る限り受け入れ配慮しています。	管理者は利用者の尊重やプライバシーに関し、職員ひとりひとりと面談しながらその重要性を伝えている。利用者同士で尊重やプライバシーを損ねるような時は職員が間に入り対応し、双方の思いを汲み取り尊厳を傷つけない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添えるように働きかけたり、自己決定が出来る様な言葉かけに努めてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、決まっていますが一人ひとりの生活リズムを大切にし、毎日が安心した生活出来る様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせて清潔感のある身だしなみを支援しています。また、介助が必要な利用者様も衣類等に汚れがある場合は、声掛けにて交換し、清潔な状態でいられる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	料理は、職員が調理するため、利用者様の好みを取り入れ出来る限り季節を感じられるような料理を考えています。食欲を高められるように食材や彩を考えて盛り付けをしています。	要望を聞いたりしながら季節に合ったものが食べられるようメニューを作成している。自分のペースで食事ができるよう、その人に合わせた食事形態に調理している。調理や食事の準備を手伝ってくれるよう声掛けを行ない、テーブル拭きや皿拭きをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスや食事量を考え、利用者様が食べたいと思う料理を考えています。また、利用者様の水分量に関しても1日どのくらい水分を取っているのかも把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事する前のうがい、食事後の口腔ケアを行っています。口腔ケア自体が困難な利用者様に対しては、職員で話し合いをして、統一した口腔ケアを行える様に実施し、口腔内の清潔を努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや、利用者様の習慣やパターンを把握、理解していきながら、トイレでの排泄と排泄の自立に向けた、支援に努めております。	金銭的な負担の減少や、利用者の尊厳に配慮しながら、失禁を増やさないよう耳元での声掛けをするなど、その人に合った定期的な声かけやトイレ誘導を行っている。職員のこまめな声かけの結果、おむつからリハビリパンツに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動への働きかけ、また飲食物を工夫してみてそれでも困難な場合は、主治医に相談します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様1名ずつが、リラックスして入浴が出来る様に声掛けや誘導の仕方を個々に変えて対応しています。入浴剤を使用して気分もあがり、入浴を楽しんで頂ける様に支援に努めています。	嫌がる方には嫌がる原因を職員で話し合いながら探し、試行錯誤しながら入浴を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。衣類の着脱時の羞恥心に配慮し、バスタオルを利用して貰い、ひとりひとりの習慣や好みに合わせ個別の入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに応じたり、その日の体調、心身、気温などの変化に合わせて都度、対応を行っていき、毎日を安心して気持ちよく休まれる様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報を理解して薬に変更があれば、症状の変化を観察し状況によっては、主治医に相談します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、利用者様と関わりながら傾聴をする事で、一人ひとりの役割や要望を引き出し、気分転換が出来る様な支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車でのドライブ、近隣内の散歩、お買い物など出来る限り機会を設けています。またご家族の協力で外出することもあります。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を理解し、天気が良い日には、窓際に座って貰ったりベランダに出て日光浴をするようにしている。季節に合わせて外出し、季節を感じて頂けるような行事を取り入れ、外に出る機会を多くしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の方にお願いしています。本人が希望する物がある場合は、事業所で立替をして職員と一緒にお買い物へ行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方から電話があれば利用者様とお話をしています。また手紙が届いたときは、直接利用者様にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や期間ごとに、利用者様と工作した作品を掲示し、居心地の良い空間作りに努め配慮しています。	本人が過ごしたい、落ち着いていられる場所で自由にしてもらっている。移動の安全を確保するために、動線に物は置かないで、ルートを確保している。職員の出勤・退勤時の手洗い、うがい、手指消毒の徹底など感染対策を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地のよい共用空間を提供出来る様に工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	馴染みの物を持ってきてもらう事で、その人らしく安心して生活してもらえるように工夫しています。	その人の身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をしている。自分の居室を間違わないよう、居室前に表札をかけている。清掃や衣替えは、職員が行ったり、自分で出来る方は見守りしながら職員と一緒に行い、清潔に整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないように、分かりやすく名称をつけて混乱せず安心して過ごせるように工夫しています。		

別紙2

事業所名：グループホーム永崎

作成日：令和7年10月9日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域との交流	グループホーム永崎という認知症対応型共同生活という地域密着型施設があることを地域の方に知って頂く。	地域のイベントや学校行事などの依頼があれば受け入れ又は、参加。地域の方が相談に来たら進んで応じる。	12ケ月
2		災害対策	永崎で、もし地震、土砂災害、津波、その他災害が起きても、日々の訓練を活かして安全避難、確保出来る様にして行く。	避難訓練を計画的に実施し、職員ひとり、ひとりどんな災害が起きても、訓練を活かして落ち着いて行動に移せるようにしていく。	12ケ月
3					ケ月
4					ケ月
5					ケ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。